



Title	観光が地域の未来を拓く : 観光まちづくりへの期待
Author(s)	石森, 秀三
Description	当日配布資料
Relation	第6回観光創造フォーラム「情報社会における新たな観光資源の創造～鷺宮・幸手で考える次世代型観光まちづくりの可能性～」．平成21年7月18日．鷺宮町．
Issue Date	2009-07-18
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/39044
Type	lecture
File Information	ishimori20090718washimiya.pdf



観光が地域の未来を拓く

観光まちづくりへの期待

北海道大学
観光学高等研究センター
大学院観光創造専攻
石 森 秀 三

1. なぜ鷺宮町は観光地ではないのか？

- (1) 旅行会社が注目する観光資源がない→旅行商品の対象外
- (2) 地域住民が観光地であることを望んでいない

2. 日本の観光が変わる

- (1) 20世紀は「他律的観光の時代」
 - * パッケージツアー依存＝旅行会社が主導する観光
- (2) 他律的観光の3要素
 - * 団体旅行＋名所見物＋周遊
- (3) 21世紀は「自律的観光の時代」
 - * 「団体旅行」から「個人・夫婦・家族・小グループ旅行」へ
 - * 名所見物型観光から参加体験・自己実現型観光（学び・癒し観光）へ
 - * 「周遊型観光（ファーストT）」から「滞在型観光（スローT）」へ
- (4) 「観光（視覚重視）」から「感幸（五感重視）」・「歓交（交流重視）」へ
- (5) 「観光の量」重視から「観光の質」重視へ

3. 日本の地域が変わる

- (1) 少子化による人口減少＋長寿化＝地域社会の変化＋産業構造の変化
- (2) 2030年における地域経済規模予測（経済産業省、2005年）
 - * 大都市圏と一部の地域を除いて、ほとんどの地域で経済規模縮小
 - * とくに北海道の各地域における経済規模縮小が顕著になる
- (3) 地域経営の転換：「定住人口」重視から「交流人口」重視へ
 - * 第1の市民＋第2の市民＋第3の市民
 - * 「定住人口（第1の市民）」重視から「交流人口（第3の市民）」重視へ
 - * 「自治体による地域経営」から「多様な市民参画による地域経営」へ
- (4) 観光を基軸にした地域活性化の創出
- (5) 地域間競争の激化＝観光をめぐる大競争時代

4. 観光をめぐる地殻変動＝観光立国の時代

- (1) 国家的課題としての観光＝観光立国懇談会（2003年1月発足）
- (2) 観光立国宣言（2003年7月）、国土交通大臣＝観光立国担当大臣
- (3) 観光立国＝住んでよし訪れてよしの国づくり＋暮らしといのちの輝く国づくり
 - * 観光立国推進基本法制定（2006年12月）＋観光庁の新設（2008年10月）
- (4) 学界における新しい動き
 - * 北海道大学観光学高等研究センター（2006年4月新設）
 - * 北海道大学大学院観光創造専攻（2007年4月新設）

5. 日本人の暮らしが変わる

- (1) 自然環境破壊、ヒト体内環境の破綻、ヒトの心の破綻
 - * ボディ（からだ）とマインド（こころ）とスピリット（たましい）の一体化
- (2) 日本人の国民性調査
 - * イライラ感の増大（とくに 20 歳代～30 歳代）
 - * 生活水準の低下感・貧困意識の増大
 - * 一番大切なものは「家族」
 - * **人のためになることをしたい（20 歳代で 43%、30 歳代で 52%）**
- (3) ワーク・ライフ・バランスの実現
 - * 自らの人生の見直し＝「無用の用」の価値＝美しき成熟
 - * GNP（国民総生産）重視から GNH（国民総幸福）重視へ
 - * 憲法 13 条に「国民の幸福追求権」
- (4) **人生をいかに楽しむかが重要になる**→旅行需要の増大→内需拡大
 - * ウェルネス・ツーリズム、クリエイティブ・ツーリズム
- (5) 成熟社会における新しいライフスタイルの創造＝ライフスタイル起業家の時代
 - * 食、住、遊、学、健、美にかかわるライフスタイル
 - * 新しいライフスタイルを求めて、アメニティ・ムーバーが動く

6. 日本の各世代が抱える人生問題

- (1) 若年世代の抱える人生問題
 - * ニート問題、若年雇用問題、草食消費、引き籠もりなど
 - * 若い世代の旅行離れ、若い世代のスポーツ離れ？
 - * なぜ「ユース・オリンピック」（14 歳から 18 歳が対象）が必要なのか？
 - * フタク・ツーリズムの可能性
- (2) 団塊世代によるライフスタイル・イノベーション
 - * 団塊の世代（1947 年～1949 年生まれ）＝約 700 万人（人口の 5.5%）
 - * 100 万人ふるさと回帰・循環運動
 - * 団塊の世代は日本を変えるか？
 - * 二地域居住によるセカンドホーム・ツーリズムの可能性
- (3) 老年世代の抱える人生問題
 - * 一人平均 3500 万円を抱えて死ぬ日本人の人生は素晴らしいか？
 - * 1500 兆円に及ぶ個人金融資産の有効活用は可能か？
 - * ハッピー・リタイアメントはあり得ないのか？
 - * 日本人は人生を楽しむことができるか？
 - * 日本人にとって人生とはなになのか？
- (4) 旅行機会のさらなる減少
 - * 有給休暇取得率 46%で低迷 →有給休暇完全取得の実現は可能か？
 - * 「有給休暇完全取得法」の制定は可能か？
 - * 「旅育推進法」の制定は可能か？
 - * 「旅行減税」の導入は可能か？

7. 観光は鷺宮町の未来を拓くか？

(1) ニューツーリズムの活発化

- * 地域医療・健康・保養システムの確立による「ヘルスツーリズム」
- * エコミュージアムを前提にした「エコツーリズム」
- * 農地改革・農村再生を前提にした「グリーンツーリズム」
- * 歴史文化基本構想による「カルチャー・ツーリズム」
- * 伝統産業・地場産業をベースにした「産業観光」
- * メディアコンテンツをベースにした「ヲタク・ツーリズム」
- * ジオパークを前提にした「ジオツーリズム」
- * 二地域居住を前提にした「セカンドホーム・ツーリズム」

(2) ニューツーリズムとしての「ステイケーション」

- * **ステイ+バケーション=ステイケーション**（合成語）
- * 自宅で連続休暇を過ごすこと
- * 経済不況の米国で生じた現象
- * ホームタウンでの観光を楽しむ

(3) セカンドホーム・ツーリズムのすすめ

- * 「都市と農山漁村の対流・共生事業」の活用
- * 鷺宮町と農山漁村との交流促進
- * 町民のためのセカンドホームによる市民観光

(4) ボランティア・ツーリズムのすすめ

- * 人のためになることをしたい（20歳代で43%、30歳代で52%）
- * 鷺宮町の人たちのためになるツーリズムはありえないのか？

(5) 「鷺宮町のお宝発見隊」のすすめ

- * 鷺宮町のお宝＝地域に対する「誇り」や「愛着」の源泉
- * 鷺宮町のお宝＝鷺宮町のGDH(市民総幸福)の源泉
- * 町民のためのお宝＝町民が「人生を豊かに楽しむ」ための財産・資源
- * 町民によるお宝さがし＝鷺宮町のお宝発見隊

(6) 地域資源（鷺宮町のお宝）の活用

- * 中小企業地域資源活用促進法（2007年に施行）にもとづく事業
- * 全国の地域資源 10,922件（農林水産品 3328、鉱工業品 2421、観光資源 5173）
- * 観光資源が47%だが、認定新規事業 527件のうち、観光資源活用事業は40件（7%）
- * 農商工連携促進法（2008年に施行）の活用

(7) 体験型観光の可能性

- * ふるさと子ども夢学校（子ども農山漁村交流事業）
- * 企業向け旅行型健康増進プログラム＝ヘルシーカンパニー

(8) 人材育成の重要性＝「地域磁力の源泉」としての人材

- * 国家資格としての「観光創造士」制度の創設

(9) PR・情報発信の重要性／インターネットの活用

(10) 「もてなし」の向上＝地域住民による「もてなし・おもいやり」の重要性

(11) 観光振興の王道

- * 歳月をかけて、「民産官学の協働」で自律的に地域資源の持続可能な活用を図ること